公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こころと育ちの支援 のびや花			
○保護者評価実施期間 ○ 保 護者評価実施期間	R7年 4月 26日		~	R7年 5月 14日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	児発:7名 放課後:13名	(回答者数)	児発:6名 放課後:11名
○従業者評価実施期間	R7年 4月 22日		~	R7年 5月 7日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数)	7名
○事業者向け自己評価表作成日		R7年 5月 7日		

○ 分析結果

		事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
		個別支援計画に基づいた個別活動、集団活動の支援プログラム		
		を実施している。	フォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むイン	
			フォーマルなアセスメントを使用することにより5領域に対応	認している。
	1		した個別支援計画を作成。	
			・・発達検査の結果や作業療法評価などの診断表を保護者の方	
			からいただきスタッフ間で情報共有し、療育の参考にしてい	
			వ .	
		地域社会とのつながりを深めることを目指し、可能な限り地域	・子どもたち主体で地域のお店や会館にチラシを配り、事業所	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他
		での多様な学習、体験、活動に参加している。	内でマルシェを開催。	のこどもと活動する機会を多くもてるような取り組みを検
	2		・防犯、不審者対応の訓練を警察署の協力のもとおこない、マ	討。
	_		ニュアルを保護者に配布する。	
L				
		静と動、それぞれの活動ができる十分なスペースを確保してい	・子供の気持ちに寄り添い、必要に応じて個別に別室で対応し	
		る。	たリ、別室を提供し活動ができる環境を整えたりしている。	
	3		・清潔、安全を保てるように掃除を委託、常に整理整頓を意識	
	,		している。	

		事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
Γ		保護者に対しての連絡や請求業務が一部紙媒体によることで生	スタッフ間での情報共有、共通認識、理解度の曖昧さがミスを	・保護者への連絡、請求書等の書類に関して、今後電子化を
l		じる入れ間違えや連絡ミス。	引き起こす原因の一部であると考える。	検討。
	1			・スタッフ間での情報共有や伝達事項については事業所内で
l	_			の掲示板だけではなく、電子ツールを使い情報や連絡事項が
l				確実にいきわたるように改善した。
L				
Γ		契約時に事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マ	周知徹底、共通の理解という点ではもう少し踏み込んだ関わり	・発生を想定した訓練を実施した際に児童の様子を記録帳に
l		ニュアル、感染症対応マニュアル等を提示し、閲覧していただ	が必要ではなかと感じる。	記載したり、動画や写真を送ったりすることで保護者の方々
	2	いてはいるが、全ての保護者に周知されているかが不明瞭。		に見てもらい周知する。
l	-			・新規児童も増えていることから年間を通して参観日や保護
l				者同士で交流する機会をもう少し増やし、その中で周知す
L				వ .
l				
l				
l	3			
l				
ı				